

このページは、小・中学生に向けて  
梅光学院大学子ども学部子ども  
未来学科(地域共生ゼミ)の学生が  
作っています。

※イラスト 児島希美さん

# しものせき キッズページ

## 「『下関十名山城』

## ～山の楽しみ方～



▲およそ500年前の室町時代後期～戦国期の勝山城の跡。  
自然と歴史を味わいに、下関の山城を訪れませんか。

城の多くは、防衛や力の象徴として建てられてきました。戦に備えて、人が入りにくい山の上に築かれた城は「山城」と呼ばれ、下関にもその城跡が残されています。

### 下関十名山城の紹介

下関の城の跡は、現在約70箇所確認されています。市の文化財保護課の中原学芸員は、その中でも中世の山城を中心に探訪し、ぜひ「十名山城」として紹介しています。中世(約500～600年前)の山城は、天守閣のある城とは違い、人が入りにくい山の中に作られました。



山頂には、無線中継施設が建てられていました。そのため、城の主要部分は残っていませんが、「石垣」や外敵からの攻撃を防ぐために掘った溝である「堀切」、斜面を縦に掘り、敵の横移動を防ぎ、上から攻撃するための「畝状堅堀」群が残っています。中世の戦い方や知恵を想像することもできますね。

### 青山城(形山城)

今回取材で訪れた青山城は、標高288メートル、青山(形山)の山頂にあり、その名前は、当時の城主からきているという説があります。



となりあう青山城主と勝山城主は一族でありながら仲が悪く、勢力争いが絶えませんでした。ついに、青山城主が力尽きて落城したという話も残っています。

山頂には、無線中継施設が建てられていました。そのため、城の主要部分は残っていませんが、「石垣」や外敵からの攻撃を防ぐために掘った溝である「堀切」、斜面を縦に掘り、敵の横移動を防ぎ、上から攻撃するための「畝状堅堀」群が残っています。中世の戦い方や知恵を想像することもできますね。

山はたくさん自然があり、空気もおいしくて楽しむところですよ。山では皆さん、上や横ばかり見ていませんか。実は、下を見て歩くのも一つの楽しみ方です。石垣の発見や、他の新しい発見があるかもしれません！

しかし、危険なこともありますので次のことに気を付けましょう。

★イノシシなどの動物に出合うかもしれません。電気柵が仕掛けられているかもしれません。空だけでなく、下や横にも注意しましょう。

★山には虫などがたくさんいます。長袖シャツを着用するなど、肌の露出はなるべく控えましょう。

★迷子になって出られなくなる可能性があります。保護者と必ず一緒に歩きましょう。

★人の土地になっている山もあるので、事前に調べ、そこには入らないようにしましょう。

決して無理をせず、皆で話をしながら、楽しく歩いてください！

下関十名山城の資料については、まずは文化財保護課 ☎252-3867(7)に問い合わせてください。

※個人所有の土地を通る山あり

※山城の表記は、遺跡の名前を付けています。地元では違う呼び方で親しまれているものもあります

### 山の楽しみ方



3月号の編集記者(左から)  
東 遥菜さん、青木麻美さん、  
西山加純さん



▲青山の土塁と堀の跡。中原学芸員が立っている場所(上)は侵入してくる敵を防ぐための土塁。



▲「下関十名山城」の資料には、青山城、勝山城、四王司山城などの詳細・写真が載っています。